鳥取大学



① 研究推進に関する事業報告

1. 鳥取大学第2回学際研究交流会(愛称: MIRAI サロン)

【7月7日(月) 開催:本学広報センター、中継:米子キャンパス】

学際研究交流会(愛称: MIRAIサロン)は、鳥取大学内の研究者が学部や学科の枠を越えて、人材交流を行う場のことで、各研究者および研究チームの熱心なコミュニケーションの場の創成を目指し、異分野の研究者同士の連携により、研究課題の解決や社会的、学問的にインパクトの大きい研究開発が学内で芽生えることを期待しています。第2回MIRAIサロンは、話題提供として、生命機能研究支援センター動物資源開発分野長の大林徹也准教授が「人工染色体と蛍光/発光システムを用いた創薬支援」、次いで農学部附属菌類きのこ遺伝資源研究センター長の中桐昭教授が「菌類きのこ遺伝資源研究センターが保有する資源の新たな活用」と題して発表しました。その後、約1時間、参加者と講師との間で質疑応答がなされた。参加者に対するアンケート調査で、「専門外の研究を聴けて有意義であった」、「染色体工学研究センターと菌類きのこ遺伝資源研究センターとの異分野融合研究の進展を期待する」、「異分野の学生にも公開してはどうか」等の感想が寄せられた。参加者は、湖山会場25名、米子会場10名でした。

2.A-STEP【FS ステージ】説明会

【7月16日(水)開催:本学 VBL、中継:米子キャンパス】

JST 担当者 にお越し頂き、JST から公募開始された A-STEP【FS ステージ】の説明会が 鳥取会場、米子会場(WEB 中継)で開催されました。ここで、A-STEP【FS ステージ】探索 タイプは企業と連携する前の技術移転の可能性がある研究を広く支援するステージに位置し、 さらに大学等のコーディネータと研究者が共同して申請するという観点から、大学の産学連携 関係者にとって、各大学の実用化研究を推進する上での一助となっています。ちなみに本学の 平成 25年度採択実績は 13件であり、中四国地方でトップの採択件数となっています。本説明会では 32名の参加者があり、さらに説明会終了後に8件の個別相談を行いました。この個別相談は、とくに参加者の満足度は高く、採択に向けた申請書のブラッシュアップを中心として実施されました。

3.平成 27 年度科研費獲得支援講演会

【8月7日(木) 開催:本学工学部大学院棟、医学部臨床講義棟】

本学の平成 27 年度科研費採択率の増加を目指し、講師に久留米大学の児島将康教授をお招きし、鳥取、米子の両キャンパスで全教員(特に科研費に初めて応募される方)を対象に、科研費獲得支援講演会を開催しました。児玉教授の講演「科研費獲得の方法とコツ」は、科研費の審査経験を生かし、研究計画書の作成のポイントを分かりやすく講演され、聴講者に好評でした。参加者は鳥取会場 68 名、米子会場 106 名(計 174 名)でした。米子会場では聴講者から、児島教授の科研費獲得に関する著書を読んで、科研費を獲得できた話も出て、実りある講演会になりました。

4.はりま産学交流会 8月創造例会【8月22日(金) 開催:姫路商工会議所】

はりま産学交流会の 8 月創造例会が約 80 名の参加のもと開催されました。同交流会は、はりま地区の企業と関西地区の大学の産学交流の場となるものです。8 月度例会では、鳥取大学の他、2 大学から各 2 件ずつ計 6 件の発表がありました。本学からは農学部早乙女梢准教授から「菌類きのこ菌株遺伝資源の収集と新たな活用への取り組み」及び大学院工学研究科江草真由美プロジェクト研究員から「新規素材キチン・キトサンナノファイバーの利用開発~農業、食品分野への活用」の 2 テーマの発表がありました。早乙女准教授からは、本学が保有する日本最大のきのこ遺伝資源の紹介、きのことの共生による森林再生、きのこの揮発性、抗菌性を活用した病害防除について発表されました。また江草研究員からはキチン・キトサンをナノレベルにする事で抗菌性、植物免疫増強、小麦粉含有生地の強度増強について発表されました。両発表とも他の大学にはない独自性の高い研究であり、多くの質問をいただき、活発な議論が行われました。また交流会でも多くの企業、大学等との交流が行われました。

5.学内プレスリリースセミナー

【8月28日(木)開催:本学広報センター、中継:米子キャンパス】

共同通信PRワイヤーより講師の方をお招きし、学内プレスリリースセミナーが開催されました。情報の扱われ方・情報を伝えるための重要点・効果的な発信方法などの事例を交えて詳しく解説していただきました。本セミナーは本学の教職員を対象に鳥取会場・米子会場にて開催され、当日は42名の方にご参加いただきました。セミナー終了後、両会場より質疑をいただき、講師の方に詳しく解説していただくという実りあるセミナーとなりました。また、10月より本学の研究成果等の情報発信ツールとして、共同通信PRワイヤーを活用したリリース記事の配信が可能となり、現在、研究成果・産学連携商品に関するリリース記事の募集をしています。研究成果等の全国的はPR手段として、ご活用ください。





6.国際フロンティア産業メッセ20141

【9月4日(木)5日(金) 開催:神戸国際展示場(神戸市)】

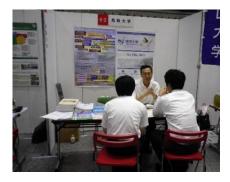
神戸国際展示場で「国際フロンティア産業メッセ 2014」が開催されました。同メッセは兵庫県、神戸市、神戸商工会議所等が主催するもので計 427 団体が出展、入場者数 28,053 人(昨年比 3,787 人増)と多くの来場者がありました。鳥取大学からは工学研究科社会基盤工学専攻から黒岩正光教授の「波と流れ(海浜流)と海浜・海底地形変化を予測する」、「自然エネルギーと簡易サンドポンプを用いたサンドリサイクルシステム」、また太田隆夫准教授の「社会基盤

施設の劣化課程・補修モデル」、及び松原雄平教授「蓄電技術 - 次世代蓄電池レドックスフローバッテリー」、「エネルギーク ラスター・都市電源無停電化計画」のテーマを発表しました。 海岸工学、蓄電技術を中心とした鳥取大学ならではの特色ある展示で、2 日間で 110 名を超える方々に大学の取組みの詳細説明を行いました。特に海浜変形のシミュレーション動画、海底の 3 次元画像も提示し、この分野での最新技術、将来方向の紹介も行い、大学としてのプレゼンス向上に貢献しました。



7.第 10 回しんきん合同ビジネス交流会【9 月 10 日 (水) 開催: コンベックス岡山】

おかやま信用金庫等が主催する「しんきん合同ビジネス 交流会」に、本学および中国地域産学官連携コンソーシア ムが出展しました。このイベントは、『岡山の元気がここ に集合!』をキャッチフレーズに、企業同士による"商談" と、相談機関等との"相談"を通じて、参加企業の「事業価 値の向上」に寄与し、経済活性化の一助となることを目的 として開催されたものです。当日は企業392社を含む491



機関が出展し、出展者等を含む約3700名が来場しました。参加企業間で商談相手を事前に組み合わせする「強制お見合い」方式による商談会では、予め企業が準備した質問内容について、活発な意見交流がなされました。本学は、参加企業様の経営上の問題点等を解決するための産学官連携に関する相談コーナー(アカデミックインターミディエイトコーナー)に出展し、多くの企業からの相談を受けました。この内、一部の相談については今後、共同研究等へ発展することも期待されます。

8.平成 27 年度科研費公募説明会

【9月11日(木)開催:本学工学部大学院棟、医学部臨床講義棟】

恒例の科研費公募説明会を、鳥取、米子の両キャンパスで開催しました。内容は、今年度の公募要領の留意点について朝國誠司研究協力課長の説明の後、計画調書の書き方について、審査員の観点から工学研究科の伊藤敏幸教授(鳥取会場)、医学系研究科の久郷裕之教授(米子会場)、更に理系教員を代表して乾燥地研究センターの山中典和教授(鳥取会場)、医学系研究科の中村貴史准教授(米子会場)、文系教員を代表して地域学部の五島朋子准教授(鳥取会場)から説明がありました。その後、兼定孝財務課長から「研究費の不正防止」、朝國誠司研究協力課長からは「研究活動の不正防止」について説明があり、盛り沢山の内容でした。参加者は鳥取会場 93 名、米子会場 96 名(計 189 名)でした。

9.イノベーション・ジャパン 2014【9月 11-12 日 (木・金) 開催: 東京ビッグサイト】

本展示会はJST、NEDO主催で開催される日本最大級の大学見本市&ビジネスマッチングです。今年度もビッグサイトを会場とし、500を超える大学展示ブースが出展され、総来場者数は2日間で23,964人にのぼりました。本学からは「アームレスを特徴とするバタフライ風車の開発」(工学研究科・原豊准教授)、「キチン・キトサンナノファイバーを用いた作物病害防除資材の開発」(農学部・上中弘典准教授)、「癌細胞を変えるマイクロRNA」(医学部・三浦典正准教授)の3つの研究テーマが採択され、出展しました。各ブースともに企業訪問者から多くの質問が寄せられ、積極的な研究シーズ発信が出来ました。

10.TNS 登録研究会第4回合同発表会【9月27日(土) 開催:米子コンベンションセンター】

とっとりネットワークシステム (TNS) (運営委員長:松原雄平機構長) は、とっとり産業フェスティバル 2014&鳥取環境ビジネス交流会 2014 の企画事業として、TNS 登録研究会第4回合同発表会を「とっとりの水産資源を活用する技術を知ろう!体験してみよう!」と題して開催しました。第1部の講演会は、日本海水産・海洋資源研究会を代表して、本機構の清水克彦准教授が「日本海水産・海洋資



源研究会ご紹介」、食品開発と健康に関する研究会を代表して、鳥取県産業技術センター食品開発研究所の小谷幸敏副所長が「古くて新しい冷凍技術活用研究」、キチンナノファイバー研究会を代表して、本学大学院工学研究科の伊福伸介准教授が「カニ殻由来の新繊維キチンナノファイバーを配合した透明材料」と題して分かりやすく講演されました(参加者 30 名)。また、第2部の体験コーナーでは、日本海水産・海洋資源研究会の「鳥取県産ハタハタの美味しさを体験しよう!」、食品開発と健康に関する研究会の「冷解凍濃縮技術を体験しよう!カニ汁の味はどうかな?」、キチンナノファイバー研究会の「伊福先生の演示実験です!あなたも体験しよう!」に多くの人が参加し、試食や透明フィルム作成実験を体験し、賑わいました(参加者 80 名)。会場内では同時に TNS 並びに TNS 登録研究会(食品開発と健康に関する研究会、鳥取県木材工業研究会、鳥取総合分析研究懇談会、鳥取県新エネルギー活用研究会)の活動紹介のポスター展示も行いました。

11.TNS セミナー【9月 27日(土) 開催:米子コンベンションセンター】

とっとりネットワークシステム (TNS) は、上記の第4回合同発表会に連携させて、TNS登録研究会の2つのセミナーを開催しました。鳥取総合分析研究懇談会は、「水のセミナー〜地域の水を知ろう!体験してみよう!〜」を企画し、前半は本学医学部の祝部大輔講師が「鳥取県のおいしい水」と題し、おいしい水の要件や鳥取県の名水地図等について、米子市水道局の山本剛氏は「地域に根付く水道水をめざして」と題し、米子市水道局の歴史・活動紹介、水

質分析に使用する機器等について講演を行いました。後半は、水の硬度測定と、4種類のミネラルウォーターを使った利き水体験を行い、参加者は地域の水に対する理解を深めました(参加者 19名)。竹林整備と竹利用に関する鳥取県連携協議会は「竹のセミナー」を企画し、本学大学院連合農学研究科(院生)の美藤友博氏が「竹するめの機能性評価と新食品素材としての応用展開」、NPO 法人養生の郷の青木邦男理事長



が「厄介者の竹林を資源の蓄林にする!」と題して講演、本学名誉教授の大北正昭氏は「竹笛制作記、指笛の考案」として誰でも吹ける砂丘笛と名付けた竹笛について講演や演奏を行ないました。同時に、竹細工や伝統和傘「淀江傘」の展示、竹するめや竹の子の水煮の試食も行いました(参加者 30 名)。

②地域貢献・生涯学習に関する事業報告

1. 韓国江原道ハンリム大学生による鳥取大学訪問

【7月14日(月):鳥取大学共通教育棟】

鳥取大学と連携協定を結んでいる南部町から、韓国 江原道春川市にあるハンリム大学の日本学科生7名が 鳥取大学を訪問しました。南部町では、ハンリム大学 の学生を年1回受け入れるホームステイ事業を平成8 年から続けており(主催:南部町国際交流協会)、鳥取 大学への訪問は今年で4回目となります。

当日は、大学院工学研究科の石井晃教授による講義 を体験し、地域学部地域文化学科の柳静我講師と鳥大 生で一緒に昼食をとりながら交流しました。



2.鳥取県農林水産業産学官技術会議 【7月16日(水):鳥取大学農学部会議室】

本会議は鳥取県内の産学官の関係者が一堂に会し、県内農林水産業の生産現場が抱える様々な課題解決を図るため、毎年1回実施されています。今回で8回目となる本会議には、増尾JA鳥取県中央会農政営農担当部長をはじめ農林水産業団体関係者、岸田鳥取県農林水産部長をはじめ県関係者及び鳥取大学から田中理事、法橋理事、田村学部長など約40名が出席し、活発な意見交換を行いました。

3.因幡・夏の手づくり教室・組み木フェスティバル

【7月19日(土)~21日(月):鳥取市文化センター】

鳥取ものづくり道場では、7/19に因幡・夏の手づくり教室を開催しました。地域においてものづくりに触れる「場」をつくることを目的に、ものづくりカフェメンバー、鳥取大学、鳥取環境大学の大学生により 10 ブースを出展し、230 人の子ども達や保護者を迎えました。いつもはカフェメンバーが指導しているものづくりクラブの子どもさんも一緒に参加者に教える、紙とんぼのブースをはじめ、メリーゴーランドや風船で作るでめきん、光のはこ、土笛などを楽しみ、大盛況の手づくり教室となりました。今回は全国組み木フェスティバル in 鳥取(7/19~21)も同時開催され、たくさんの組み木の作品の展示と組み木の製作が行われ、親子で製作を楽しむ姿も見受けられました。

4. 平成 26 年度第2回とっとり防災・危機管理研究会

【7月22日(火):鳥取大学工学部附属地域安全工学センター、鳥取県危機管理局災害対策本部室】

今年度2回目となるとっとり防災・危機管理研究会を鳥取大学工学部附属地域安全工学センターで開催しました。はじめにセコム山陰の坪内様に「鳥取県内のBCP策定に関する現状と課題」についてBCP策定の必要性を感じている企業は多いが、取り組んでいない企業に対してどういう形でアプローチしていくかが今後の課題であるという報告がありました。また、報告事項では各会員の教員が防災関連



事業について経過報告を行いました。その後、県内各防災イベントへの出展について協議を行い、地震や津波のメカニズムが学べるよう、大学からは学生を派遣し、ブース出展へ協力することを確認しました。

5. 平成 26 年度中部地区産学金官連携推進連絡会総会 【7月24日(木): 倉吉シティホテル】

平成26年度中部地区産学金官連携推進連絡会総会が倉吉シティホテルで開催され、当日は27 団体(59名)の会員が出席しました。昨年度事業報告、今年度事業計画など、当会の運営方法についての説明の後、会員各機関が中部地区での主な取り組みを紹介しました。鳥取大学は地域貢献支援事業や地(知)の拠点整備事業、大学発新産業創出拠点プロジェクト(START)などについて説明するとともに、これらの事業を活用していただくよう各会員へ広くPRを行いました。

6. 鳥取大学・大山町連携推進連絡会 【7月25日(金):鳥取大学広報センター】

昨年3月に鳥取大学と連携協定を締結した大山町が、協定締結後初めてとなる意見交換会を名称も新たに「大山町・鳥取大学連携推進連絡会」として鳥取大学広報センターで開催しました。この連絡会は、大学教員やコーディネーターと町担当者が連携事業促進のために意見交換を行うもので、今回は大山町から6名の連携事業担当職員が出席し、今年度の大山町との連携事業や大山町からの要望について大学教員と活発な意見を交わしま



した。その中で大山町は大学に対し、医療費の削減に向けた取組や安心・安全なまちづくりに ついて大学に更なる協力を求め、大学との今後の更なる連携強化を確認しました。

7.Science Shop と大学の地域連携 【7月25日(金): 鳥取大学産学・地域連携推進機構】

鳥取大学は従来の地域貢献活動を経て、2013年度より「地(知)の拠点整備事業」に採択され、地域コミュニティの中核的存在としての一層の機能強化を図っています。この度、より広範な地域連携を行う手段のひとつとして、ヨーロッパの大学を中心に設置されているScience Shopに注目し、有識者を招いた勉強会を開催しました。講師に大阪大学コミュニケーションデザインセンター教授の平川秀幸氏を招き、Science Shopの概要や大阪大学出の取組み、鳥取大学への適用可能性についてお話をいただきました。

8. 鳥取県と鳥取大学との連絡協議会 【7月30日(水): とりぎん文化会館】

平井知事、豊島学長ほか県と大学の幹部職員が出席 して、第16回の連絡協議会を鳥取市内で開催しました。 今回は、地方創生と鳥取大学の役割、人口活力対策、 地域医療推進体制の充実などをテーマに意見交換を行 いました。県から、「今後地方創生のためには鳥取大学 を中心とした高等教育機関の役割が非常に重要であり、 このためには優秀な人材の確保と若者の流出阻止のた



めの大学教育の基盤強化が必要。」と協力要請がありました。また、本学からは、昨年度文部科学省に採択された地(知)の拠点整備事業や地域医療推進体制の充実に当たっての諸課題について提案するなど、県との更なる連携と協力について活発に意見交換を行いました。

9.平成 26 年度第1回日南町森林活用プロジェクト会議

【7月31日(木):鳥取大学 産学・地域連携推進機構】

町内の森林資源の有効活用と林業振興による地域雇用の創出を目指すことを目的として、昨年 10 月に「日南町森林活用プロジェクト会議」が発足しました。この度開催された今年度第1回目となる会議では、短期的な取り組みを目指す「森林・林業に関する新しい取り組みの広報・啓発」について、または中・長期的な取り組みを目指す「日南町産材の販売戦略・林業活性化に向けた取組み」について重点的に協議が行われました。



視察に対応するモデルフォレストの整備や広報を兼ねた木工品の開発などについて課題は多く、今後も定期的に「日南町森林活用プロジェクト会議」を開催する予定です。

10.鳥取大学天文ドームー般公開 【8月2日(土)、23日(土):鳥取大学共通教育棟】

鳥取大学屋上に設置されている天文ドームの一般公開を実施しました。8月23日の一般公開には80名を超える方にご参加いただきました。残念ながら曇りがちの天候であったため天体観測を十分に行うことは出来ませんでしたが、国際宇宙ステーションが鳥取上空を通過するタイミングでは雲間から音もなく夜空を横切る光点を観察することができました。本事業は「鳥取大学大学開放推進事業」の支援を受け、鳥取市さじアストロパークとの連携事業として実施するものです。なお、8月2日は悪天候のため中止としました。

11. 鳥取大学地域貢献事業成果報告会 【8月6日(水):米子コンベンションセンター、8月7日(木):倉吉未来中心、8月8日(金):鳥取県立生涯学習センター】

平成25年度に実施した鳥取大学地域貢献支援事業と、鳥取県から採択を受けて取り組んだ環境学術研究等振興事業の成果報告会を県内3会場で開催し、自治体職員や地域住民の方など延べ103名の参加がありました。いずれの事業も地域課題の解決を目指して取り組んだもので、各自治体の職員の方からも連携事例についてご報告いただきました。



このうち米子会場では、産学・地域連携推進機構の清水准教授から、境港市と連携した持続的地場産業の発展に向けた「産官学連携による地域における新たな水産業の創出を支援する取組み」など3件の報告を行い、来場者は発表に聞き入っていました。

12.とっとりグランマ倶楽部第7期 修了式 【8月9日(土):鳥取大学広報センター】

今年度で7期目となるとっとりグランマ倶楽部が、6月28日、7月5日、7月19日、7月26日、8月2日、8月9日の計6日間に渡り、鳥取大学広報センターを会場に行われました。「多様性~互いを認め合い、共に生きる仲間づくり~」をテーマに、明治大学・鳥取大学の教員のほか、倉吉市で障がい者支援を行っている団体や公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会など、様々な分野の講師が教壇に立ち、21名の受講生が熱心に受講しました。



修了式では、佐分利実行委員長から修了生に対し、修了証明書が交付されました。

13.第 10 回鳥取県内四市と鳥取大学との連絡協議会 【8月 18日 (月):米子市役所】

鳥取大学では、県内4市と一層の連携強化を図ることを目的とした連絡協議会を、平成16年度から実施しています。10回目を迎える今回は、米子市で開催されました。会議には県内4市長(鳥取市は副市長が代理出席)をはじめ、各部局長、大学からは豐島学長、理事、副学長らが出席し、4市との提案・要望事項等について協議を行いました。まず、4市から大学に対し、「企業が求める人材の育成」、「医師不足の問題」



など様々な提案や要望について意見が交わされました。また、大学からも、地域の課題解決 や人材育成等について「地(知)の拠点整備事業」への協力等を依頼し、今後も互いに有益 な関係を築いていく事を確認しました。

14.鳥取県西部総合事務所と鳥取大学との意見交換会

【8月26日(火):西部総合事務所】

鳥取県西部総合事務所と鳥取大学との意見交換会を 鳥取県西部総合事務所で開催しました。

この意見交換会は西部総合事務所と鳥取大学との連携 強化を図ることを目的として4年前から開催していま す。5回目となる今回は西部総合事務所と鳥取大学の 幹部職員合わせて31名が出席しました。西部総合事 務所からは学生の地域貢献活動による中山間地域の活



性化について提案があり、学生の定住促進施策を検討するうえで相互に連携・協力していく ことを確認しました。鳥取大学からは昨年度文部科学省に採択された地(知)の拠点整備事 業や地域貢献活動への積極的な協力を要望するなど、更なる連携と協力について活発に意見 交換しました。

15.TORIDAI EDGE Talk vol.1 [8月27日(水):Le Cochon d'Or a Table]

鳥取大学では、一方的に講師から学ぶのではなく、参加者同士の対話から新たなアイデアを産み出すという新しいコンセプトの公開講座「TORIDAI EDGE Talk」を新たに開講します。8月27日には第一回目が開催されました。話題提供者に工学研究科の谷本教授を迎え「人口減少も悪くない?」とのテーマで開催しました。25名の定員を超えるお申し込みをいただき、参加者は熱心に対話を行いました。



16.鳥取県中部総合事務所と鳥取大学との意見交換会

【8月29日(金):鳥取大学広報センター】

鳥取県中部総合事務所と鳥取大学との意見交換会を 鳥取大学広報センターで開催しました。この意見交換会 は、中部総合事務所と鳥取大学の幹部職員が一堂に会し て、中部管内の活性化方策について意見・情報交換を行 うとともに、今後の地域貢献分野における一層の連携強 化を図ることを目的に毎年開催しています。

今回は中部総合事務所と鳥取大学の幹部職員及び教



員等21名が出席しました。中部総合事務所からは集落営農の組織化、法人化への支援や婚活、 移住・定住に関する効果的な取組などについて5つの提案があり、それぞれ提案ごとに活発な 意見交換が行われました。

17.鳥取大学・鳥取銀行連携セミナー 【9月4日(木):鳥取大学広報センター】

本学と鳥取銀行が平成 16 年に締結した「連携協力に関する協定」に基づき、県内企業のビジネスマッチングの促進及び県内産業の活性化を目的として、「鳥取大学・鳥取銀行連携セミナー」を開催しました。

6回目となった今回は、「地域資源を活用した産業創出」をテーマに、本学からは産学・地域連携 推進機構 長島 正明准教授が「鳥取大学における大学発ベンチャー創出などに関する新しい取組紹 介」と題し、本学の大学発ベンチャー支援の現状と課題から課題解決に向けた新規のベンチャー支援事業の紹介を、また、工学研究科 伊福准教授が「地域資源"カニ殻"を用いた素材開発研究」として、境港産の廃カニ殻から作り出すことに成功した新素材"キチンナノファイバー"の利用方法や活用事例について講演を行いました。



当日は、地元企業・行政機関の関係者等計 46 名の方に

ご参加いただき、セミナー終了後は産学官金連携交流会を開催し活発な意見交換が行われました。

18.第 36 回全国国立大学生涯学習系センター研究協議会

【9月8日(月)、9日(火):鳥取大学 共通教育棟ほか】

9月8日(月)~9日(火)の2日間に渡り「第36回 全国国立大学生涯学習系センター研究協議会」を開催 しました。当研究協議会は生涯学習の振興に資することを目的として毎年全国大会を開催しており、今年度 は本学が当番校となり鳥取市で開催されました。1日 目のシンポジウムでは「地域における大学の生涯学習 活動の意義と役割」と題して基調講演とパネルディス



カッションを行い、会員大学の教職員及び県内自治体職員等85名が参加しました。2日目には「社会人の学び直し」や「公開講座」といった6つの分科会に分かれて、各テーマに沿ったワークショップと、最後に全体討論を行い、今後の本協議会のあり方などが話し合われ、大変有意義な会となりました。

19.鳥取県生活環境部と鳥取大学との意見交換会

【9月10日(水):鳥取大学広報センター】

鳥取県生活環境部と鳥取大学との意見交換会を、鳥取 大学広報センターで開催しました。両者のより一層の連 携強化を図ることを目的に毎年開催しているもので、県 生活環境部からは中山部長をはじめ幹部職員15名が、ま た大学からは田中理事、細井理事、法橋理事をはじめ計 14名が出席しました。

県生活環境部からは、日本海沖メタンハイドレート調 査促進や、リグニン溶解性イオン液体実用化の支援、山



陰海岸ジオパーク世界再認定現地審査、遊休不動産活用型地域再生・活性化推進事業の取組等

について要望・提案がありました。また、本学からは、鳥取県環境学術研究等振興事業等の研 究成果の活用や、公開講座等への職員の参加などについて要望等を行いました。

20.とっとり産業フェスティバル 2014&鳥取環境ビジネス交流会

【9月26日(金)、27日(土): 米子コンベンションセンター】

9月26日~27日の二日間に渡り、「とっとり産業フェスティバル 2014&鳥取環境ビジネス交流会 2014」が開催されました。

基調講演として、「サキどり」「クローズアップ現代」でお馴染みのNHK片岡利文解説委員による「ガキ大将型マネジメントのすすめ~あのNHKスペシャルから13年」と題した講演が行われたほか、企業・団体・



研究機関によるブース展示、山陰発シーズ発表会、TNS合同発表会、各種セミナー等が行われました。

今年は「見て触れて感じてください とっとりの技術」をテーマに、一般来場者が体感型の 観覧が出来るよう工夫を凝らしたブースが多く出展されました。また、小さなお子さま向け のイベントとして、伯耆・秋の手づくりまつりも行われ、会場は多くの家族連れで賑わいま した。

21.伯耆・秋の手づくりまつり 【9月27日(土): 米子コンベンションセンター】

米子ものづくり道場では、『伯耆・秋の手づくりまつり』を「とっとり産業フェステイバル 2014&鳥取環境ビジネス交流会 2014」の会場内で開催しました。手づくりまつりは、子ども達へものづくりを楽しむ機会を提供し、ものづくりを通して子ども達の好奇心と想像力を育み、科学の芽を育てたいと行っているものです。

今回は「つくってあそぼう、あそんでかえろう」をテーマに、米子ものづくり道場指導者養成講座修了生が中



心となって作品制作の指導及び運営にあたり、「IC ラジオ」「カライドサイクル」「ふうせんてっぽう」など8ブースを出展しました。延べ384名の参加者があり、親子で作品作りに熱中したり、作った作品で遊んだり、あちこちに子ども達の笑顔があふれていました。

<u>22.平成 26 年度鳥取大学公開講座</u> 【7月5日(土)、19日(土): 医学部総合教育棟、8月2日 (土): 境港市保健相談センター、9月6日(土)、9月27日(土): 倉吉交流プラザ】

鳥取大学では地域社会への貢献の一環として、教育・研究の成果を広く地域住民の皆さんに開放することを目的とし、毎年公開講座を実施しています。

今年度は「大学を活用する地域 地域を活用する大学」をテーマとし、7月に米子会場で、9月に倉吉会場で、各会場2回にわたり開催しました。米子会場では2日間で92名、倉吉会場では56名が受講され、受講生は熱心に聞き入り、講義後は活発な質疑応答が行われました。

また、8月2日(土)には、境港会場で開催し、地域学部 竹川准教授が、「ボランティア活動で拓こう!安心して暮らせる豊かな福祉社会」と題し講義を行い、 当日は22名の参加者がありました。



③知的財産管理運用に関する事業

1.山陰発 (鳥取、島根) 新技術説明会 【7月4日(金) 開催:大阪商工会議所】

大学等から特許出願済みの最新の技術シーズを企業等へ向けて発表し、研究者と企業等のマッチングを図る新技術説明会「山陰(鳥取・島根)発新技術説明会」を、昨年に引き続き第8回目を大阪で開催しました。技術分野を「ライフサイエンス」と「材料」として、鳥取大学、島根大学、鳥取県産業技術センター、島根県産業技術センター、鳥取県衛生環境研究所の5機関から合計11件の新技術を発表しました。本



学からは、地域学部・中野惠文 特任教授、農学部附属菌類きのこ遺伝資源研究センター・中桐昭 教授、染色体工学研究センター・香月康宏 助教、大学院工学研究科・近藤 克哉 教授の 4 名が特許出願済みの新技術を発表しました。来場者は約 118 名であり、名刺交換や個別相談が行われました。

2.DSANJ 疾患別商談会 【8月27、28日 開催:大阪産業創造館】

大阪商工会議所、大阪医薬品協会が主催するバイオ・創薬系技術の商談会に、医学部・三浦典正准教授による「マイクロRNAを用いた未分化型肝癌細胞を幹細胞に形質転換する技術応用とそのリプログラミング機序の解明」、および染色体工学研究センター・熊野 聡客員教授による「ヒト人工染色体ベクター技術によるヒトに近い薬物代謝を持つマウス作製とその創薬応用」をテーマとして参加致しました。商談会では、会期中 11 社の事前申込企業と個

別に面談し、技術説明や今後の実用化に対する連携について話合いが行われました。創薬系技術は、その実用化までに多額の投資と期間が必要であることから、何れの企業でも事業化に対する見通しや技術内容の確認など、限られた面談時間内で多くの質疑が行われました。本商談会においても当該技術に対する企業の高い関心が認められ、引き続き連携に向けた契約等の協議を進めています。

3.知的財産インターンシップ

【9月4日~9月18日 開催:ものづくり実践センター、青山特許事務所】

「知的財産インターンシップ」は、学生、教職員等を対象にして、特許等の知的財産権について理解を深め、研究開発や製品開発等へ役立てられる人材を育成するため、毎年この時期に実施しているものです。特許基礎セミナーには、学生・教員等から5名が参加し、下田知財経営綜合事務所・下田 一弘 弁理士(鳥取大学 客員教授)により、特許権に関する講義と共に、特許の権利範囲である請求項について演習が行わ



れました。また、実務実習は、3日間、青山特許事務所(大阪市北区)へ出向き、実務を通して弁理士の仕事を学ぶ実習が行われました。この実習には本学の工学部1年生、および本学以外から法学部3年生、教員1名の合計3名が参加しました。各実習者は、それまで未知であった弁理士の仕事が、どのようなものであるか学び、また出願書類の書き方を習得した方もいました。学生にとっては進路選択の一助となったものと思われます。

4.山陰発技術シーズ発表会 in とっとり 2014

【9月26日(金) 開催:米子コンベンションセンター】

山陰地域の大学・高専・研究機関が最新の研究成果を発表し、これら技術の活用、企業等への技術移転を図ることを目的として、「山陰発技術シーズ発表会 in とっとり 2014」を開催しました。今回は、「健康・医療・環境・機械・材料・食品」を技術分野として、島根大学、鳥取大学、鳥取環境大学、島根県立大学短期大学部、松江工業高等専門学校、米子工業高等専門学校、島根県産業技術センター、鳥取県産業技術セン



ター、鳥取県衛生環境研究所の9機関から各機関イチ押しの新技術が発表されました。本学からは、農学部・上中 弘典 准教授が「パンなど小麦粉製品の食感や健康機能性を向上させる新素材」と題して、「キチンナノファイバー」の食品応用に関して発表しました。本発表会は、関係者・発表者を除き、企業や鳥取県内の支援機関などから約60名の方が聴講されました。

● 新任コーディネータのご紹介

2014 年 10 月 1 日付で奥村コーディネータが着任されましたのでお知らせします。奥村コーディネータは地域連携担当のコーディネータとして関連業務に当たられます。今後は他のコーディネータ同様よろしくお願いいたします。



氏名: 奥村和敬

前職:民間会社 役員

経験職種:マーケティング、マネジメント

抱負:

企画、営業関係を中心に全国ネットでの経験があり、知識、人間関係を活かして努力したい。

● サイエンス・アカデミー今後の予定

開催日	シリーズ名	会場	講師	演題
10月11日	サイエンス・アカデミー in Yonago	鳥取大学 医学部 総合教育棟	地域学部 准教授 中原 計	原始古代の自然環境と 人々のくらし
10月18日			農学部 准教授 早乙女 梢	資源としての「きのこ」の 多様性と可能性
10月25日	染色体研究と応用展開	鳥取県立 図書館	医学系研究科 教授 久郷 裕之	がんは遺伝子と染色体の病気
11月8日	サイエンス・アカデミー in Yonago	鳥取大学 医学部 総合教育棟	農学部 准教授 明石 欣也	アフリカの砂漠を生き抜く スイカの秘密
11月22日			工学研究科 准教授 竹森 史暁	人の生活を支援するロボット テクノロジー
12月13日	鳥取大学の地域貢献	鳥取県立 図書館	産学・地域連携推進機構 准教授 清水 克彦	鳥取大学地域貢献支援事業 〜境港市との連携による水産分野 での取組み〜

※10月11月のサイエンス・アカデミーは米子開催です。

発行日:平成 26 年 10 月 15 日 < 第 38 号 > 所在地:〒680-8550 鳥取市湖山町南 4-101

Tel: 0857-31-5609 Fax: 0857-31-5571

連絡先:鳥取大学産学・地域連携推進機構

ホームページ:http://www.cjrd.tottori-u.ac.jp/ E-mail:ken-somu@adm.tottori-u.ac.jp